20240219　スキー場は閉鎖、諏訪湖の御神渡りはなく「明けの海」

今週末は、今月２度目の三連休です。でも、連休が明けたら２月最終週です。ゆっくりしたい、でもそわそわ落ち着かない・・・そんな連休になりそうです。皆さんは、どんなスケジュールでしょうか？

2019 年で閉鎖となった、群馬県水上大穴スキー場

前回の三連休で、スキーに行ったという先生がいらしたので、様子を伺ってみました。「全然雪がなくて、駐車場までノーチェーンでも大丈夫なほどでした。」とのこと。実は、このスキー場は、今シーズンで終業、閉鎖が決まっているとのことでした。確かに山の上の方こそ雪の体でも下はびちゃびちゃで悲しくなったということでした。「ずっと贔屓にしていたスキー場だったから、本当に残念です。同じ思いのスキーヤーも多かったんじゃないでしょうか。閉鎖を惜しんで集まったって感じで、例年になく混んでいました。」と感想を話してくれました。別の先生は、新潟のスキー場に行ったとのことでした。しかし、あまりに雪質が悪く、長野のスキー場に場所を変えて楽しんできたとのことでした。

年明けに各地のスキー場の話題がニュースで流れましたが、雪そのものがなく、「営業ができない」「１年で一番の書き入れ時なのに、完全に空振った」と悔しそうにしている姿が印象的でした。

今シーズンをもって閉鎖が決まっている、事実上営業を停止しているスキー場は、北海道でノーザンアークリゾートスキー場を含め７か所、青森県２か所、宮城県１か所、秋田県２か所、山形研１か所、福島県２か所、栃木県１か所、群馬県１か所、新潟県８か所、長野県５か所などとなっています。閉鎖の理由は、雪不足だけではなく、施設の老朽化やスキー人口の減少（ピーク時の１／４まで落ち込んでいる）、電気やガソリンなどエネルギーコストの高騰など様々な要因があります。しかし、決定的なのは、今後スキー場として安定した雪の確保と成長への期待感がもてないことにあると思います。成長はともかく現状維持すら望めないことから設備改善や投資ができないということでしょう。雪不足は、除雪作業を生業としている方々にも深刻なダメージを与えています。

諏訪湖の御神渡り、かつてはこのような現象が当たり前のように見られていた。

併せて、日曜日の朝、長野県諏訪湖の神事である「御神渡り」が今年も起きなかったというニュースが流れました。諏訪湖が全面結氷すると、南の岸から北の岸にかけて氷が裂けて、高さ３０ｃｍ～１ｍ８０ｃｍくらいの氷の山脈ができます。これは、諏訪神社の上社の神様（男神）が下社の神様（女神）に通った道筋といわれています。御神渡りができると、その割れ方からその年を占う神事が行われてきました。しかし、２０１８年を最後に

この御神渡りは起きていません。氷が張らずこの御神渡りがない年を「明けの海」と呼んでいます。御神渡りの記録は、室町時代あたりにまで遡れるとのことですが、御神渡りの起きなかった「明けの海」は１０年に１度起きるかどうかの珍事だったそうです。それが、２００１年以降は、２３年間で１６回が明けの海となっているとのことでした。今年は、凍結どころか１月２０日に雪ならぬ雨が降りました。凍結とは無縁の波立つ湖面がニュース画面に映し出されていました。

今年、正月明けの諏訪湖。

これが、地球温暖化によるものだとしたら、もう以前には戻らないということでしょう。「変動するこの気候変動にどう対応していくか」という対応型、後追い型の発想では、ずるずるいくだけのように思います。「この気候変動の世界をどう変えていくか、どう止めるか」という発想で行動していかないといけないと思います。それなのに、あまりに一人一人がバラバラなような気がします。コロナに対して全人類的にマスク、ワクチン等で挑んだように、気候変動に対して協調した取組をしていく動きが求められていると感じます。